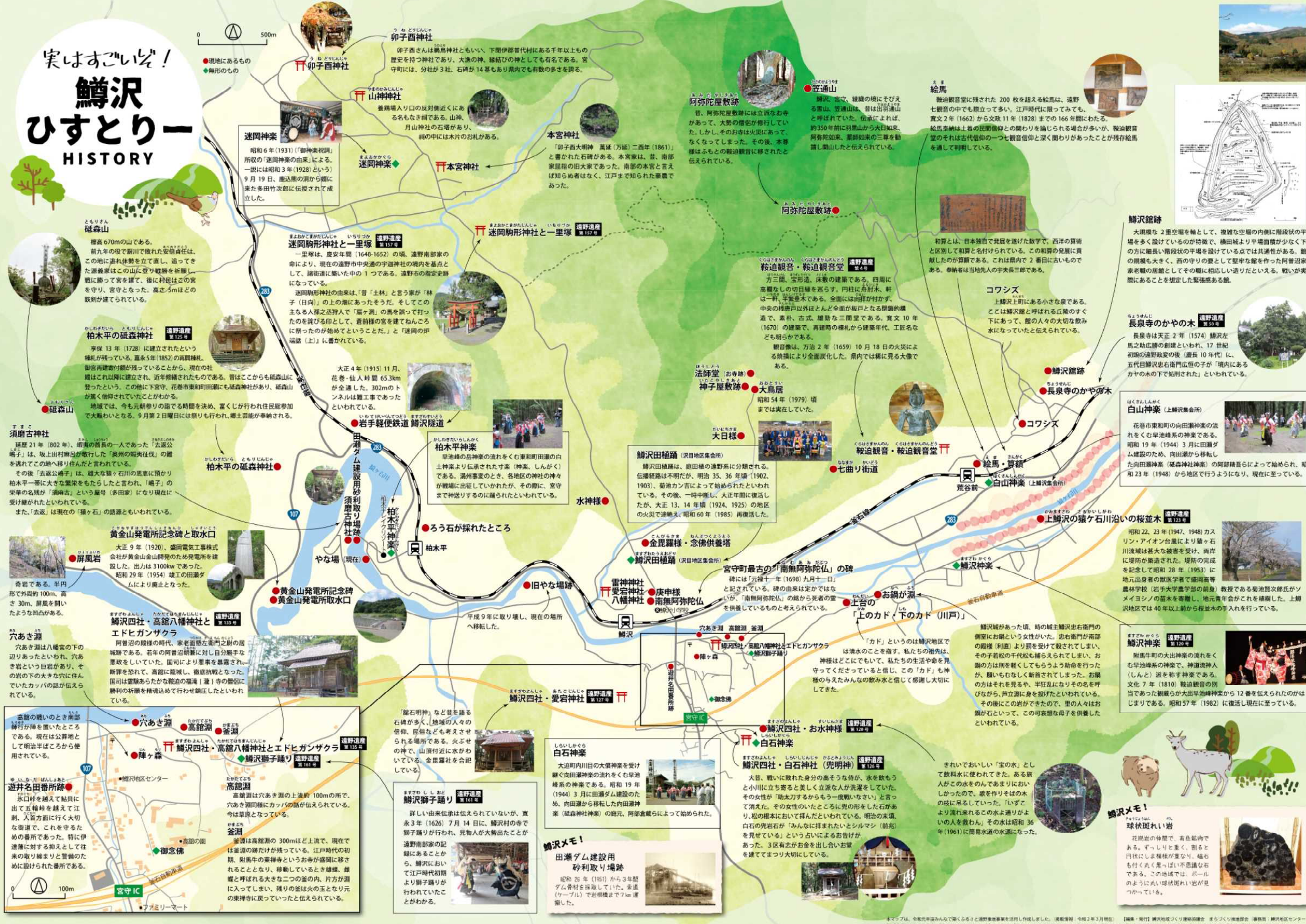


実はすごい! 鱒沢 ひすとリー HISTORY



砥森山
標高670mの山である。前九年の役で藤川で敗れた安倍貞任は、この地に流れ体勢を立て直し、追ってきた源義家はこの山に登り戦勝を祈願し、戦に勝って宮を建て、後に村民はこの宮を守り、宮守となった。高さ5mほどの鉄剣が建てられている。

柏木平の砥森神社
享保13年(1728)に建立されたという棟札が残っている。寛永5年(1852)の両儀棟札。御宇再建寄付額が残っていることから、現在の社殿はこれ以降に建立され、近年修繕されたものである。昔はここからも砥森山に登ったという。この地に下宮守、花巻市東和町田瀬にも砥森神社があり、砥森山が驚く信仰されていたことがわかる。地域では、今も元朝参りの詣でる時間を決め、富くしが行われ住民参加で大賑わいとなる。9月2日曜日には祭りも行われ、郷土芸能が奉納される。

須磨古神社
延暦21年(802年)、蝦夷の酋長の一人であった「去返公(鴨子)」は、坂上田村麻呂が敗れた「奥州の蝦夷征伐」の難を逃れてこの地へ移り住んだと言われている。その後「去返公(鴨子)」は、雄大な猪ヶ石川の恩恵に預かり、柏木平一帯に大きな繁栄をもたらしたと言われ、「鴨子」の豪華な名残が「須磨古」という屋号(多田家)になり現在に受け継がれたといわれている。また、「去返」は現在の「猪ヶ石」の語源ともいわれている。

黄金山発電所記念碑と取水口
大正9年(1920)、盛岡電気工務株式会社黄金山開山のため発電所を建設した。出力は3100kwであった。昭和29年(1954)竣工の田瀬ダムにより廃止となった。

六あき淵
穴あき淵は八幡宮の下の辺りであったといわれ、穴あききという巨岩があり、その岩の下の大きな穴に住んでいたカッパの話が伝えられている。

遊井名田番所跡
水口峠を超えて鮎貝に出て五輪峠を越えて江刺、入首方面に行く大切な街道で、これを守るための番所であった。特に伊達藩に対する抑えとして往來の取り締まりと警備のために設けられた番所である。

御念佛
高館の洞

迷岡神社
昭和6年(1931)「御神楽祝詞」所収の「迷岡神社の由来」による。一説には昭和3年(1928)という。9月19日、鹿込の洞から船に乗った多田竹次郎に伝授されて成立した。

迷岡駒形神社と一里塚
一里塚は、慶安年間(1648-1652)の頃、遠野南部家の命により、現在の遠野市中央道の宇道神社の境内を基点として、諸街道に臨いた中の1つである。遠野市の指定史跡になっている。迷岡駒形神社の由来は、「昔「土林」と言う家が「林子(日向)」の上の畑にあった。そしてこの主なる人孫の丞孫で「藤ヶ洞」の馬を譲って打ったのを詫言の印として、昔御様の宮を建てたころに祭ったのが始まったことだ。」と「迷岡の伊達話(上)」に書かれている。

柏木平神社
大正4年(1915)11月、花巻-仙人峠間65.3kmが全通した。302mのトンネルは難工事であったといわれている。

黄金山発電所記念碑と取水口
大正9年(1920)、盛岡電気工務株式会社黄金山開山のため発電所を建設した。出力は3100kwであった。昭和29年(1954)竣工の田瀬ダムにより廃止となった。

鱒沢四社・高館八幡神社とエドヒガンザクラ
阿曾沼の殿様の時代、家老龜左衛門之尉の居城跡である。若年の阿曾沼朝暉に対し、自分勝手な悪政をしていた。国司より悪事を暴露され、断罪を恐れて、高館に籠城し、徹底抗戦となった。国司は靈験あつたかたの鞍迫の福満(瀧)寺の僧侶に勝利の祈願を精進込めて行かせ、鎮圧したといわれている。

高館淵
高館淵は穴あき淵の上流約100mの所で、穴あき淵同様カッパの話が伝えられている。今は草場となっている。

高館の洞
釜淵は高館淵の300mほど上流で、現在では釜淵の跡だけが残っている。江戸時代の初期、附馬牛の東禅寺というお寺が盛岡に移されることとなり、移動しているとき雄雄、雄雄と呼ばれる大きな二つの釜の内、片方が洞に入り、残りの釜は火の玉となり元の東禅寺に戻ったといわれている。

本宮神社
「卯子西大明神 萬延(万延)二酉年(1861)」と書かれた石碑がある。本宮家は、昔、南部家屈指の旧大家であった。南部の本宮と言え知らぬ者はなく、江戸まで知られた豪農であった。

阿彌陀屋敷跡
昔、阿彌陀屋敷跡には立派なお寺があって、大勢の僧侶が修行していた。しかし、そのお寺は火災にあって、なくなってしまった。その後、本尊様はふもとの鞍迫観音に移されたといわれている。

阿彌陀屋敷跡
観音像は、万治2年(1659)10月18日の火災による焼損により全面炭化した。県内では稀に見る大像である。

宮守町最古の「南無阿彌陀仏」の碑
碑には「元禄十一年(1698)九月十一日」と記されている。碑の由来は定かではないが、「南無阿彌陀仏」の鏡から死者の霊を供養しているものと考えられている。

白石神社
大迫町内川目の大儀神楽を受け継ぐ向田瀬神楽の流をくむ早池峰系の神楽である。昭和19年(1944)3月に田瀬ダム建設のため、向田瀬から移転した向田瀬神楽(砥森神社神楽)の庭元、阿部倉蔵らによって始められた。

鱒沢獅子踊り
詳しい由来伝承は伝えられていないが、寛永3年(1626)7月14日に、鱒沢村の寺で獅子踊りが行われ、見物人が大勢出たことが遠野南部家の記録にあることから、鱒沢においで江戸時代初期より獅子踊りが行われていたことがわかる。

田瀬ダム建設用砂利取り場跡
昭和26年(1951)から3年間ダム骨材を採取していた。索道(ケーブル)で岩塊を7km運搬した。

阿彌陀屋敷跡
昔、阿彌陀屋敷跡には立派なお寺があって、大勢の僧侶が修行していた。しかし、そのお寺は火災にあって、なくなってしまった。その後、本尊様はふもとの鞍迫観音に移されたといわれている。

阿彌陀屋敷跡
観音像は、万治2年(1659)10月18日の火災による焼損により全面炭化した。県内では稀に見る大像である。

宮守町最古の「南無阿彌陀仏」の碑
碑には「元禄十一年(1698)九月十一日」と記されている。碑の由来は定かではないが、「南無阿彌陀仏」の鏡から死者の霊を供養しているものと考えられている。

白石神社
大迫町内川目の大儀神楽を受け継ぐ向田瀬神楽の流をくむ早池峰系の神楽である。昭和19年(1944)3月に田瀬ダム建設のため、向田瀬から移転した向田瀬神楽(砥森神社神楽)の庭元、阿部倉蔵らによって始められた。

鱒沢獅子踊り
詳しい由来伝承は伝えられていないが、寛永3年(1626)7月14日に、鱒沢村の寺で獅子踊りが行われ、見物人が大勢出たことが遠野南部家の記録にあることから、鱒沢においで江戸時代初期より獅子踊りが行われていたことがわかる。

田瀬ダム建設用砂利取り場跡
昭和26年(1951)から3年間ダム骨材を採取していた。索道(ケーブル)で岩塊を7km運搬した。

阿彌陀屋敷跡
昔、阿彌陀屋敷跡には立派なお寺があって、大勢の僧侶が修行していた。しかし、そのお寺は火災にあって、なくなってしまった。その後、本尊様はふもとの鞍迫観音に移されたといわれている。

阿彌陀屋敷跡
観音像は、万治2年(1659)10月18日の火災による焼損により全面炭化した。県内では稀に見る大像である。

宮守町最古の「南無阿彌陀仏」の碑
碑には「元禄十一年(1698)九月十一日」と記されている。碑の由来は定かではないが、「南無阿彌陀仏」の鏡から死者の霊を供養しているものと考えられている。

白石神社
大迫町内川目の大儀神楽を受け継ぐ向田瀬神楽の流をくむ早池峰系の神楽である。昭和19年(1944)3月に田瀬ダム建設のため、向田瀬から移転した向田瀬神楽(砥森神社神楽)の庭元、阿部倉蔵らによって始められた。

鱒沢獅子踊り
詳しい由来伝承は伝えられていないが、寛永3年(1626)7月14日に、鱒沢村の寺で獅子踊りが行われ、見物人が大勢出たことが遠野南部家の記録にあることから、鱒沢においで江戸時代初期より獅子踊りが行われていたことがわかる。

田瀬ダム建設用砂利取り場跡
昭和26年(1951)から3年間ダム骨材を採取していた。索道(ケーブル)で岩塊を7km運搬した。

阿彌陀屋敷跡
昔、阿彌陀屋敷跡には立派なお寺があって、大勢の僧侶が修行していた。しかし、そのお寺は火災にあって、なくなってしまった。その後、本尊様はふもとの鞍迫観音に移されたといわれている。

阿彌陀屋敷跡
観音像は、万治2年(1659)10月18日の火災による焼損により全面炭化した。県内では稀に見る大像である。

宮守町最古の「南無阿彌陀仏」の碑
碑には「元禄十一年(1698)九月十一日」と記されている。碑の由来は定かではないが、「南無阿彌陀仏」の鏡から死者の霊を供養しているものと考えられている。

白石神社
大迫町内川目の大儀神楽を受け継ぐ向田瀬神楽の流をくむ早池峰系の神楽である。昭和19年(1944)3月に田瀬ダム建設のため、向田瀬から移転した向田瀬神楽(砥森神社神楽)の庭元、阿部倉蔵らによって始められた。

鱒沢獅子踊り
詳しい由来伝承は伝えられていないが、寛永3年(1626)7月14日に、鱒沢村の寺で獅子踊りが行われ、見物人が大勢出たことが遠野南部家の記録にあることから、鱒沢においで江戸時代初期より獅子踊りが行われていたことがわかる。

田瀬ダム建設用砂利取り場跡
昭和26年(1951)から3年間ダム骨材を採取していた。索道(ケーブル)で岩塊を7km運搬した。

阿彌陀屋敷跡
昔、阿彌陀屋敷跡には立派なお寺があって、大勢の僧侶が修行していた。しかし、そのお寺は火災にあって、なくなってしまった。その後、本尊様はふもとの鞍迫観音に移されたといわれている。

阿彌陀屋敷跡
観音像は、万治2年(1659)10月18日の火災による焼損により全面炭化した。県内では稀に見る大像である。

宮守町最古の「南無阿彌陀仏」の碑
碑には「元禄十一年(1698)九月十一日」と記されている。碑の由来は定かではないが、「南無阿彌陀仏」の鏡から死者の霊を供養しているものと考えられている。

白石神社
大迫町内川目の大儀神楽を受け継ぐ向田瀬神楽の流をくむ早池峰系の神楽である。昭和19年(1944)3月に田瀬ダム建設のため、向田瀬から移転した向田瀬神楽(砥森神社神楽)の庭元、阿部倉蔵らによって始められた。

鱒沢獅子踊り
詳しい由来伝承は伝えられていないが、寛永3年(1626)7月14日に、鱒沢村の寺で獅子踊りが行われ、見物人が大勢出たことが遠野南部家の記録にあることから、鱒沢においで江戸時代初期より獅子踊りが行われていたことがわかる。

田瀬ダム建設用砂利取り場跡
昭和26年(1951)から3年間ダム骨材を採取していた。索道(ケーブル)で岩塊を7km運搬した。

阿彌陀屋敷跡
昔、阿彌陀屋敷跡には立派なお寺があって、大勢の僧侶が修行していた。しかし、そのお寺は火災にあって、なくなってしまった。その後、本尊様はふもとの鞍迫観音に移されたといわれている。

阿彌陀屋敷跡
観音像は、万治2年(1659)10月18日の火災による焼損により全面炭化した。県内では稀に見る大像である。

宮守町最古の「南無阿彌陀仏」の碑
碑には「元禄十一年(1698)九月十一日」と記されている。碑の由来は定かではないが、「南無阿彌陀仏」の鏡から死者の霊を供養しているものと考えられている。

白石神社
大迫町内川目の大儀神楽を受け継ぐ向田瀬神楽の流をくむ早池峰系の神楽である。昭和19年(1944)3月に田瀬ダム建設のため、向田瀬から移転した向田瀬神楽(砥森神社神楽)の庭元、阿部倉蔵らによって始められた。

鱒沢獅子踊り
詳しい由来伝承は伝えられていないが、寛永3年(1626)7月14日に、鱒沢村の寺で獅子踊りが行われ、見物人が大勢出たことが遠野南部家の記録にあることから、鱒沢においで江戸時代初期より獅子踊りが行われていたことがわかる。

田瀬ダム建設用砂利取り場跡
昭和26年(1951)から3年間ダム骨材を採取していた。索道(ケーブル)で岩塊を7km運搬した。

阿彌陀屋敷跡
昔、阿彌陀屋敷跡には立派なお寺があって、大勢の僧侶が修行していた。しかし、そのお寺は火災にあって、なくなってしまった。その後、本尊様はふもとの鞍迫観音に移されたといわれている。

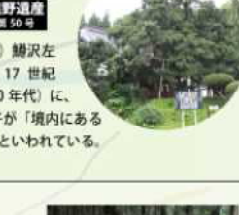
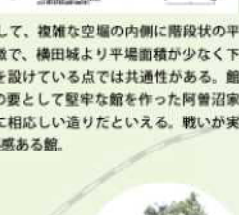
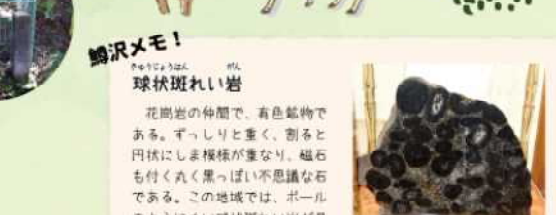
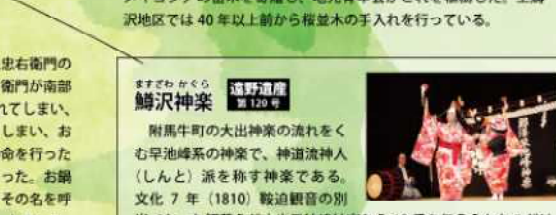
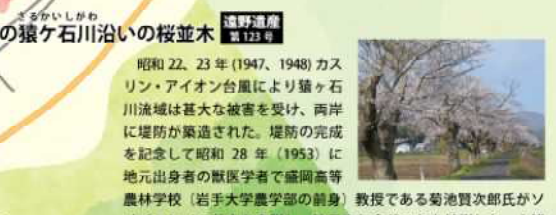
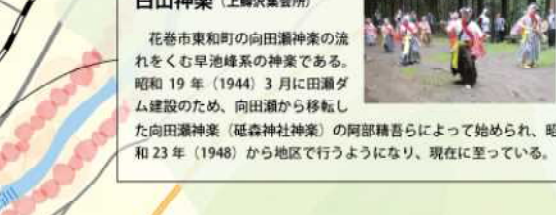
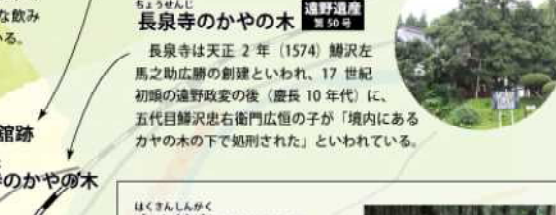
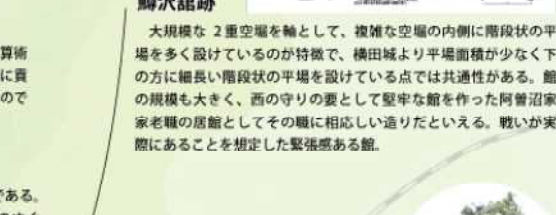
阿彌陀屋敷跡
観音像は、万治2年(1659)10月18日の火災による焼損により全面炭化した。県内では稀に見る大像である。

宮守町最古の「南無阿彌陀仏」の碑
碑には「元禄十一年(1698)九月十一日」と記されている。碑の由来は定かではないが、「南無阿彌陀仏」の鏡から死者の霊を供養しているものと考えられている。

白石神社
大迫町内川目の大儀神楽を受け継ぐ向田瀬神楽の流をくむ早池峰系の神楽である。昭和19年(1944)3月に田瀬ダム建設のため、向田瀬から移転した向田瀬神楽(砥森神社神楽)の庭元、阿部倉蔵らによって始められた。

鱒沢獅子踊り
詳しい由来伝承は伝えられていないが、寛永3年(1626)7月14日に、鱒沢村の寺で獅子踊りが行われ、見物人が大勢出たことが遠野南部家の記録にあることから、鱒沢においで江戸時代初期より獅子踊りが行われていたことがわかる。

田瀬ダム建設用砂利取り場跡
昭和26年(1951)から3年間ダム骨材を採取していた。索道(ケーブル)で岩塊を7km運搬した。



大規模な2重空堀を軸として、複雑な空堀の内側に階段状の平地を多く設けているのが特徴で、横田城より平地面積が少なく下の方に細長い階段状の平地を設けている点では共通性がある。館の規模も大きく、西の守りの要として堅牢な館を作った阿曾沼家老の居館としてその職に相応しい造りといえる。戦いが実際にあったことを想定した緊張感ある館。

和算とは、日本独自で発展を遂げた数字で、西洋の算術と区別して和算と名付けられている。この和算の発展に貢献したのが算頭である。これは県内で2番目に古いものである。奉納者は当地先人の宇夫長三郎である。

上鱒沢上町にある小さな泉である。ここは鱒沢館と呼ばれる丘陵のすぐ下にあつて、館の人々の大切な飲み水になっていたといわれている。

長泉寺は天正2年(1574) 鱒沢左馬之助広勝の創建といわれ、17世紀初頭の遠野政変の後(慶長10年代)に、五代目鱒沢忠右衛門伝恒の子が「境内にあるカヤの木の下の如削された」といわれている。

花巻市東和町の向田瀬神楽の流れをくむ早池峰系の神楽である。昭和19年(1944)3月に田瀬ダム建設のため、向田瀬から移転した向田瀬神楽(砥森神社神楽)の阿部精吾らによって始められ、昭和23年(1948)から地区で行うようになり、現在に至っている。

昭和22、23年(1947、1948)カスリン・アイオン台風により猪ヶ石川流域は甚大な被害を受け、両岸に堤防が築造された。堤防の完成を記念して昭和28年(1953)に地元出身者の獣医学者で盛岡高等農林学校(岩手大学農学部的前身)教授である菊池次郎氏がソメイヨシノの苗木を寄贈し、地元青年会がこれを植樹した。上鱒沢地区では40年以上前から桜並木の手入れを行っている。

附馬牛町の火出神楽の流れをくむ早池峰系の神楽で、神道流神人(しんと)派を称す神楽である。文化7年(1810)鞍迫観音の別当であった頼蔵らが火出早池峰神楽から12巻を伝えられたのが始まりである。昭和57年(1982)に復活し現在に至っている。

きれいでおいしい「宝の水」として飲料水に使われてきた。ある旅人がこの水を含んであまりにおいしかったので、歌を作りお宝の水の枝に吊るしていった。「いざこより流れ来るこの水よ通りがよいの人を救はん」といわれていた。その後にこの岩ができた、里の人々はお宝が石といつて、この可哀な母を供養したといわれている。

花崗岩の砕屑物で、青色鉱物である。ずっしりと重く、割ると円柱にしま模様(放射状)が重なり、磁石も付く黒っぽい不規則な石である。この地域では、ボールのように丸い球状斑れい岩が見つかっている。

本マップは、令和元年(2019)年まで集めた遠野市地誌を基に作成しました。(掲載情報:令和2年3月現在)【編集・発行】鱒沢地誌つくり推進協議会 主幹つくり推進部会(事務局:鱒沢地区センター)【出典】『遠野の歴史』、『宮守に伝わる伝説』、『宮守土記』、『宮守の歴史と文化』、『遠野の歴史』、『宮守の歴史』、『上鱒沢神社跡地建設教育資料』、『土の伝説と神』、『史跡 鞍迫観音さまと鱒沢神々』